

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 30年8月10日

学籍番号	17pma06	学系	トレーニング科学系
氏名	岩崎 宏次		
学会等名 (正式名称)	アジア南太平洋スポーツ心理学会		
開催日程	2018年6月29日 ~ 2018年7月3日		
開催場所 (国・都市名)	大韓民国 (大邱)		
発表演題名	Features of psychological techniques that can be utilized in soft tennis		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> 今回の ASPASP 2018 は、2018年6月29日から7月3日までの5日間にわたって大韓民国の大邱で行われた。アジア圏内の参加者が大半でありその中でも日本人の参加者が多かった。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> 今回発表した内容とは異なるが、自分の研究と同様の認知心理学や運動学習についての発表がいくつかあり興味深い内容であった。相手の存在が注意資源に及ぼす影響を検討した研究では、相手のレベルによって結果が異なっており、相手のレベルが自身と比較をして高すぎる場合、主の課題に対する注意資源が衰退することを明らかとしていた。他にも、運動学習の過程について、達成度は同じでも習熟過程が規則的な被験者と、不規則な被験者がいることを明らかにした研究の課題が、初めて拝見するもので興味深い内容だった。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> 発表に対する質問は、「今後の心理サポートについて、どのように発展させていくのか？」や、「なぜ、ソフトテニスだったのか？」という内容が多かった。質問者とのディスカッションの中で、質問者が以前に行なったメンタルトレーニングの事例を伺えることができ非常に勉強になった。発表以外にも、私の研究と同様の領域に限らず、多くの発表を拝聴することができた。知識不足のために理解が難しかった発表も多かったが、積極的に質問することができた。</p> <p>私は初めての国際学会であり緊張したが、諸外国の研究者と英語で議論するととても良い経験を得た。日本人以外の研究者に説明することや、質問に答えることの難しさを実感した。今後は、もっと活発な議論を展開したいため、課題である英会話の力を伸ばしたいと思う。また、多くの発表者や質問者、研究内容を目にしたことが刺激となり、これまで以上に研究活動に励みたいと思った。今回の ASPASP 2018 に参加し、新たな知見を得ることができたため、学んだことを今後の大学院生活をはじめとした研究活動に活かしていきたい。</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。

提出期限は学会終了後2週間以内とする。本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。